

第39回 口腔機能って何だろう？

(その14)

北九州在宅医療・介護塾

塾長 久保 哲郎

先月に引き続いて「食事で困っていること」をテーマにして、その対応策についてご紹介します。

Q-2：食べ物が口に入っても噛まなかったり、口に入れた食べ物を出しりしてしまいます。

●本人から、歯が痛いとか入れ歯が合わないとか訴えてくれないと、お口の中の問題はなかなか気づきにくいですね。本人に尋ねても本当の答えがかえってこないこともあります。このような場合は、日頃からの状態をよく観察しておき、スタッフの方から察してあげることです。

例えば、食べ物を噛んだ時やお口から入れ歯の出し入れする際に変な顔をしたり、噛みがきを嫌がったり、或いは何時までもお口の中に食べ物が入っていたり、食事の量が減

ってきた時などは、入れ歯が合わなくなっていることのサインかもしれません。

このような場合は、「かかりつけ歯科医」に診て戴きましょう。う

- 認知機能が低下すると、目的に合った運動ができなくなったりします。全身の運動機能の低下が口腔にも影響をおよぼし、噛んだり、飲み込んだりする力が弱くなることもあり、その結果として、ご自分の咬合力に合わない料理は食べられなくなります。このような場合は、やわらかく煮たり、咀嚼しやすい大きさにしたり、食材に切り込みを入れるなど工夫をされてはどうでしょうか？
また、摂食・嚥下機能がさらに低下した場合には、トロミかけやペースト状にして食べやすくしましょう。

義歯についてのアドバイス

長年装着している義歯によっては、ゆるくてぶかぶかしているように一見みえても、舌や頬、口蓋と十分に適合していたり、さらには、摂食・嚥下関連筋群などに協調運動機能が保持されている場合には、「その人らしい」摂食・嚥下が可能なこともありますので、新義歯を製作するよりも旧義歯を修理する方が良いこともあります。

義歯の使用・不使用についての判断は慎重に。